【小学校・中学校・義務教育学校用】

年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式１（小・中）

学校名	佐賀市立大詫間小学校

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果

・校内研究においては、話し合い活動で相手意識をもって考えを伝えたり、聞いたりすることが大事だと考える児童が増え、主体的・対話的な学びの実現へ向けた授業の質的改善を図ることができた。児童が学習の中で考えをより深めるために、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。
・地域の方々と関わる体験活動や学校行事を通して、児童がふるさと「大詫間」を愛する心を育むことができた。150周年を迎える次年度は、地域についての学習や行事を通して、ふるさとの良さを確かめたり、地域の一員として何ができるかを考えさせたりし、夢や目標をもって心豊かに生きる力を育成していきたい。

2 学校教育目標 自ら学ぶ学校、地域を愛する学校

3 本年度の重点 （１）「思いやりと感謝の心」を育てる。　（２）「確かな学力の向上」を図る。　（３）「基本的生活習慣・運動習慣の確立」を図る。　（４）「郷土愛」を育てる。　（５）「交流活動の推進」を図る。

4 重点取組内容・成果指標　中間評価　5 最終評価

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組：取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：達成度	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言
●学力の向上	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○問いを中心として授業づくりを行うことで、「問いをもって学習に取り組み、自分の考えを深めたり広げたりしながら学習することができている」と回答した児童90%以上とする。	・校内研究と関連させて、児童が「問い」をもって探求し、考えを深めるような授業を設定する。 ・1人1台端末の効果的な活用を進める。	B	・「授業中、友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしながら学習することができていると思う。」と回答した児童は90%以上だった。 ・教員へのアンケートから、100%の教員が児童に問いをもたせる場面を授業に取り入れ、児童が考えを深められるような授業づくりを行っている。 ・学習状況調査の分析から、文章を書かせる際、条件をつけたり、要点をまとめたりすることを意識して指導していく。 ・児童の主体的な家庭学習を促すために、3年生から6年生が自主学習ノートや一人一台端末を活用できている。	A	・「授業中、友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしながら学習することができていると思う」と回答した児童は95%以上だった。 ・教員へのアンケートから、100%の教員が児童に問いをもたせる場面を授業に取り入れ、児童が考えを深められるような授業づくりを行うことができた。 ・校内研究と関連して、全クラスで研究授業と授業研究会を実施し、教員の授業力の向上に努めた。 ・一人一台端末を活用する授業づくりに取り組み、4年生以上の授業で毎日活用することができた。 ・児童の主体的な家庭学習を促すために、「家庭学習がんばろう週間」や自主学習ノートを推進するための取り組みを行った。	A	・問いとPC活用ということで最新の取組だと思うが、児童同士の会話が減らないように気を付けてほしい。 ・授業を参観した時に6年生の対話的な学びができていた。自信をもって話していたので、力が身についてきている。 ・地域のバス遠足で6年生がお礼の言葉を自分で考えて言うことができているのは、授業で考える力を伸ばしているからだと思う。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校生活が楽しい・友達やまわりの人に優しくできる」と回答した児童85%以上とする。	・人権集会等で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。	A	・9月に実施したアンケートの結果、「友達や周りの人に優しくしている」と答えた児童は97%であった。「学校は、いのちの大切さや思いやる気持ちを育てる指導に取り組んでいる」と答えた保護者は100%だった。 ・全校で取り組んでいる「こころの実」は、友達のよいところなどを見つけ、お互いのよさや頑張りを認め合うことができ、自尊感情や自己肯定感を高めることができている。	A	・12月に実施したアンケートの結果、「学校は楽しい」と答えた児童は90%で、目標値を5ポイント上回った。学校が楽しくないと答えた児童や気になる児童には、チームで支援を続けていく。「友達や周りの人に優しくしている」と答えた児童は98%であり、ほとんどの児童が思いやりの気持ちをもって人と関わることができている。児童が書いた「こころの実」カードは、掲示をしたり、職員が毎週校内放送で紹介したりした。また、縦割り班活動を通して、他者への思いやりを育んだり、社会性を育んだりすることができた。	A	・アンケートで「学校は楽しくない」と答えた児童へのフォローをする必要がある。 ・思いやりがあるのはよいが、クラスの人数が少なく競争心が育たないかもしれないので、打たれ強く自己主張できる人に育ってほしい。 ・大切にされて自己肯定感が高い児童が多く、中学校でも活躍している児童がいる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員95%以上とする。	・毎月初めに「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書かせる。 ・「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を年2回以上行う。 ・各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。	B	・月に1回の心のカードや学期に1回の「教育相談週間」を実施している。 ・月に1回の子ども支援会議での情報共有を行うことで、悩みを抱えた児童に対しての早期対応や支援をすることができている。 ・後期も計画に沿って実践する。今後も、担任と連携して、きめ細やかな児童観察と支援を続けていく。	A	・月に1回の心のカードや2学期の教育相談週間も予定通り実施し、児童の悩みに対して早期対応を行うことができた。 ・いじめの対応やWEBQUについての研修を行い、児童の実態把握や学級づくりに関する理解を深めた。 ・いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した教員は100%であった。保護者も肯定的な回答が100%であった。今後も、心のカードや教育相談週間（3学期は2月9日～20日に実施予定）、子ども支援会議などを通して、教員間で情報共有を行っていく。また、きめ細やかな児童観察と支援に努めていく。	A	・優しい児童やおとなしい児童へのいじめが心配されるが、思いやりのある児童が多いため仲間意識もつよい。 ・下校中に欠席した児童の家の前で、家に向かって欠席児童の名前を呼んで励ましている優しい姿を見かけた。 ・SNSなどのいじめ対応について、子どものトラブルにも親が気付き、親同士でライングループを止めさせたことがあった。 ・SNSに関しては学校で禁止できることが少ないので、家庭の力が必要。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリアパスポートを効果的に活用し、自己肯定感を育むようにする。 ・各種体験活動では，児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒87%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒87%と目標達成をしていた。 ・キャリアパスポートの活用において、行事や学期の振り返りを行う際に、自己評価と他者（教師や友達）からの評価を記入し、自己肯定感を高めていきたい。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童93%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童87%と目標を達成していた。否定的な回答の児童に配慮し、支援や指導を行っていく。 ・キャリアパスポートを活用し、行事や学期の振り返りを行った。自己評価と他者（教師や友達）評価によって、自己肯定感を高め、将来の夢の達成に向けて意欲付けにつながった。	A	・自分の夢をもてない児童が増えたが、中学生では更に36%の生徒しか夢をもてないでいる。 ・夢をもつことは難しい児童も多いため、地域の職業人の話を聞く機会をつくる等、キャリア教育を充実させていく。
●健康・体つくり	●☆「望ましい生活習慣の形成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童85%以上とする。 ●児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・「睡眠チェック表」を年に2回配布し、生活習慣を意識させる。保健だよりを通じて睡眠の大切さについて年に2回以上啓発し保護者との連携を図る。 ・交通安全教室で学んだ道路歩行や自転車の乗り方について、年間を通し定期的に意識させ、指導を行う。 ・ヘルメット着用率を高めるために、家庭への啓発を交通安全教室、終業式、懇談会で行う。 ・学期ごとの「家庭学習がんばろう週間」では、学習時間だけでなく起床、就寝時刻や朝食の有無をチェックし、生活習慣の見直しを図る。	B	・睡眠チェック表を1回配布。早寝早起きができていると答えた児童は74%であった。保健だよりを通じて睡眠への啓発は2回以上行っているが、引き続き保護者との連携を図りながら、後1回チェック表を実施する。 ・交通安全教室は道路歩行や自転車の乗り方について、運動場で実地訓練を行った。生活集会などで交通安全についてくり返し指導を行う。 ・危機管理マニュアルを見直し、役割の再確認をする。 ・集団下校での気づき（対策等が必要なところ）を職員会議で話し合う。 ・1学期に「家庭学習がんばろう週間」を実施し、学習時間だけでなく起床、就寝時刻や朝食の有無をチェックさせ、生活習慣の見直しを図った。2、3学期も実施し、達成率の向上を目指したい。	B	・夏休みに配布した睡眠チェック表や毎月の保健だよりで、規則正しい生活について啓発することができた。「早寝早起きができている」と回答した児童は73%だった。12月には歯科校医によるブラッシング指導を行うことができた。冬休みは、睡眠チェック表ではなく歯みがきカレンダーを配布し、歯磨き習慣の定着を図った。今後も家庭との連携を続け、よい生活習慣の定着を図っていく。 ・「安全な生活について考え、行動できている」と回答した児童は94%であった。継続して安全指導に努めていく。 ・懇談会で「冬休みのくらし」を配布し、家庭への啓発を行った。「安全な学校づくりに取り組んでいる」と肯定的に回答した保護者は、100%であった。今後も安全指導の充実を目指したい。 ・2学期にも「家庭学習がんばろう週間」を実施したところ、学習の目標達成者が増加した。しかし、テレビやゲーム等の視聴時間の目標達成者が減少していたので、今後も取り組みを続けながら生活習慣の見直しを図っていく。	B	・12月に実施した歯科校医によるブラッシング指導の機会をもつことができてよかった。 ・親子で歯磨きに取り組んでいってほしい。朝は忙しいと思うので、夜などに仕上げ磨きなどに取り組んでほしい。 ・高学年児童は、忙しいので丁寧に磨いていないときいたことがあるので、歯を磨く余裕があるとよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人あたりの年次休暇の取得日日数14日以上	・資料のデジタル化を確立。ICT利活用による校務の効率化を推進する。 ・定時退勤日の設定（金曜日）、出退勤PC横に、平常日の退勤目標時刻を個人が予告・表示し、意識化を図る。	B	・ICTを活用した家庭学習を実施することで、採点などの業務を軽減し、校務の効率化を図ることができた。 ・連絡会の回数を減らし、授業準備等の時間確保することができた。退勤目標時刻を実施できるよう、今後も個人の意識を高めていきたい。 ・夏季休業中の研修をまとめたり授業時間を調整したりすることで、91%の職員が年次休暇等を計画的に取ることができた。	A	・業務改善を意識し、1学期よりも在校勤務時間が減った職員が100%だった。 ・連絡会を昨年度よりも10回以上減らし、下校時刻を早くしたことで、業務の時間を増やすことができた。さらに行事の精選や業務の効率化を推進していく必要がある。引き続き、教員のタイムマネジメント力の向上を図っていきたい。 ・年休の取得率を14日以上では、個人差があるため、さらに年休取得率の向上を促進していきたい。	A	・時間外勤務の時間が減っていても、持ち帰りの仕事が増えないようにしていくべき。 ・子育て世代の先生たちが年休を取りやすいようにしてほしい。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した教員90%以上とする。	・子ども支援全体会議の場を活用して特別支援教育に関する情報共有をしたり、校内研修を実施したりして専門性を高める。 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた支援方針や配慮事項の共有を図る。	B	・毎月の子ども支援全体会議では、支援が必要な児童についての情報共有を図っている。7月の職員研修では、環境を整えて児童を支援することについてスーパーティーチャーより学んだ。 ・次年度に向けて、通常学級で支援が必要な児童について、担任と情報共有をし適切な支援につないでいきたい。児童の発達段階に応じて、特別支援教育についての啓発を2学期中に行う予定である。	A	・「特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した」と回答した職員は、100%であった。保護者も「個々の子どもの実態に応じて細やかな支援や指導を行っている」と肯定的な回答が100%であった。 ・全クラスにおいて特別支援教育についての啓発を発達段階に応じて行うことができた。 ・何らかの困難さを抱える児童については、今後も保護者と情報共有を図り、支援を続けていく。	A	・縦割り活動などで異年齢同士の交流する機会が増え、上級生が下級生のお世話をすることが多い。それぞれのよさを大切にして、思いやりのある行動も多いので、このまま継続してほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組：重点取組内容	重点取組：成果指標（数値目標）	具体的取組	中間評価：達成度	中間評価：進捗状況と見通し	最終評価：達成度	最終評価：実施結果	学校関係者評価：評価	学校関係者評価：意見や提言
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「地域の良さを知ることができた」と回答した児童85%以上とする。	・総合的な学習の時間や生活科等と関連させ地域の教育力を生かした学習を仕組む。 ・体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、郷土を愛する心を育む。	A	・9月実施のアンケートで「地域の行事にすすんで参加している」と答えた児童は82%だった。「学校は、地域や郷土を愛する心をはぐくんでいる」と答えた保護者は100%だった。地域伝統行事「浮立」にも多くの児童が参加した。 ・地域の方と全校での交流を行ったり学年ごとの学習を行ったりしている。今後も学級・学校便りで子どもたちや保護者の声を取り上げ、発信する。 ・地域学校協働活動として、田植えや稲刈り大豆の種まきや芋さし等、地域の方と体験活動を行い、大詫間のよさを感じる児童が95%であった。	A	・「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」と回答した児童86%、「地域の良さを知ることができた」児童97%と、どちらも目標を達成できた。 ・年間を通し、全校や学年毎で地域の方と交流することができた。 ・大野島小学校との交流も実施することができた。今度も持続可能な内容での取り組みを継続していきたい。	A	・社会体育の試合等で参加できない児童以外は、多くの児童が公民館行事に参加していた。 ・5年生に「大詫間の歴史について」授業を行った。学んだことを創立150周年記念式典の際に、劇で発表してもらい嬉しかった。大詫間の成り立ちについて、地域の人達に広げることができたので、よかった。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望

・校内研究においては、問いを中心にした主体的な学びや協働的に友達と学ぶ授業を通して、自分の考えを広げたり深めたりする児童が増えた。問いを中心にした授業改善が進み、ICTを効果的に活用した主体的・協働的な授業実践が増え、授業力の向上に繋がった。来年度も、問いを中心に据え、共有したり問い直したりする学習の中で、自分の考えをより深めるために、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。
・創立150周年記念式典に向けた取組や地域の方々と関わる体験活動、学校行事を通して、児童がふるさと「大詫間」のよさに気付き、地域を愛する心を育むことができた。次年度は、ふるさと大詫間や佐賀のよさに気付いたり、地域の一員として何ができるかを考えたり、将来について調べたりする活動を通して、夢や目標をもって心豊かに生きる力を育成していきたい。